

2021年度 事業報告書

2021年6月1日から2022年5月31日まで

特定非営利活動法人 チャリティーサンタ

1 事業の成果

2021年度を振り返って

2021年も、新型コロナウイルスの影響を受ける一年となりました。

しかしながら、サンタクロースのボランティア人数が大きく減少した2020年度に対して、人数も戻り結果として過去最高となり、オンラインと対面の活動のハイブリッドなどでの実施を行うことができた一年となりました。（2020年度：1,294名→2021年度：2,015名）

最終的に、支部でのクリスマスに家庭へ直接訪問する活動においては、全国30都道府県で1,587家庭の子ども達へプレゼントと思い出を届けることができ、その内、困難を抱える607家庭となりました。

一方、新型コロナの影響を受ける中で、ボランティア同士が親睦を深める機会は依然として難しい場面も多くあり、運営スタッフの定着化が難しい一面もありました。社会参画の裾野を支えるボランティアのコミュニティとしてのあり方に今後も試行錯誤を続けなくてはならないと考えます。

また新型コロナの影響を受けるのは国内だけでなくありません。チャリティーサンタでは「Santa mothersDream」というプロジェクト名でモノ作りを通じ、ネパールの母子を支援する活動実施しています。新型コロナによる影響は日本よりも遥かに大きく、ロックダウン（都市封鎖）による交通インフラが停止するなど、仕事場に通えない時期も数ヶ月ありました。

また直近では、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、急激な物価上昇で多くの人々が困っている状況です。もともと隣接するインドや中国から輸入に頼っている側面が大きく、日常生活に大きな影響が出ている様子です。具体的には、ガソリン代が値上がりした影響で、毎日通勤で使っていたバス代は2倍に。お米の値段も1.5～2倍になり、普通に仕事をしてても手元に残るお金がどんどん減ってしまうと女性たちが口にしてしている状況です。女性たちへの支援費についても増額することに決定しました。

「通年販売できるマスコット人形」を制作する計画は、これらの要因から当初予定よりも大きく遅れています。引き続き粘り強く活動を続けていきます。

また今年のクリスマス時期には一般世帯と困窮世帯を比較する形で「新型コロナの影響における体験」と「誕生日のあり方」を調査しました。

「子どもたちに愛された記憶を残す」という自分たちのミッションから、困窮世帯の誕生日支援についても取り組んでいきます。（詳細は後述）

（1）企業連携～ブックサンタの寄付冊数が3万冊を突破～

寄付プログラムとして定着したことや、新しい書店の参入もあり、今年は3万冊を超えての寄付が集まりました。

実施書店は新たに6法人が賛同してくださり、イオングループの「未来屋書店」は151店舗で参加、徳島の老舗書店「平惣」、洋書専門店「絵本の家」など専門書店も増える形になりました。結

果として、42都道府県461店舗（18法人）でブックサンタを実施することができました。残す未実施県は、福井・鳥取・島根・熊本・長崎です。

チャリティーサンタの支部が活動しているエリア以外の子ども達にも、特別な体験とプレゼントを届けられるよう、全国の子どもを支援する団体との活動連携を行い、今年は、35都道府県の120団体へブックサンタで集まった寄付の本を贈りました。

このようにプロジェクトが大きくなっていく中で、課題となっているのが本の管理と活用までの準備です。これまで、本の管理や選書・発送作業を外部倉庫を間借りする形で対応をしていました。毎年寄付をしてくださる方や本を届ける子ども達が増えていく中で、「本に対してのスペースが足りない」「場所に制約があり多種多様な本を子どもたちに合わせて選書しにくい」などの課題が出てきました。たくさんの方が想いを込めて贈ってくれた本を、1人1人の子ども達に合わせて届けるため、本の管理・作業に特化した場所を作りたいと考えるようになり、「ブックサンタ ライブラリー」を新設。

2021-22年度は「みてね基金」からの助成を受けて運営しますが、それ以降はブックサンタサポーターさんの寄付によって継続して運営できる形を目指していきます。

(2) 行政との協働を通じた困窮家庭の支援について

2019年より、岡山市（こども福祉課）と行った困窮世帯の体験調査活動を元に困窮世帯の体験を応援するモデル事業を実施してきました。2021年度は事業終了年でもありましたが、2022年度より、（すでに予算化され配信団体として動いてきた）情報配信事業に加えて、体験活動等の企画と運営支援機能も施策・予算化され、モデル事業後も継続した連携ができることとなりました。

本来、子ども時代に当たり前に経験する体験が子どもの心を育みます。今後も様々な企業や団体（営利・非営利問わず）と手を取り合い、チャリティーサンタのミッションである「子どもたちに愛された記憶を届けること」を叶えるような活動を今後も行っていきます。

また、この一連の取り組みが評価を受け、内閣府が主催する【地方創生SDGs官民連携優良事例】に選定されました。

行政と事業を一緒に行うことは、受益者・協力企業・協力団体ともに対する信頼性が向上することに繋がります。今後もNPOの得意とする寄り添ったプログラムづくりや家庭のニーズ把握から実績をつくり、必要な活動の幅を広げることを目指します。

(3) コロナ禍における困窮家庭の「子どもの体験格差」調査を実施 ～誕生日の支援を本格化へ～

コロナ禍における「子育て家庭の格差」と「子どもの体験の格差」を明らかにし、今後の支援方針の策定を目的に、子育て家庭2,994世帯に対して調査を実施。

対象は「困窮家庭」と「一般家庭」で両者を比較し、「子どもの誕生日」の格差について確認しました。

コロナ禍での「体験格差」に関する調査結果により、子育て家庭の中でも困窮家庭がよりしんどくなり、さまざまな子どもの体験をあきらめている割合が相対的に高いこと。それと同時に、保護者はあきらめさせた経験を通じて、親子ともに劣等感やあきらめを感じるということが明らかに増えていることがわかりました。

誕生日は家庭が重要視しているイベントであることから、困窮家庭も頑張っているものの、それでも準備が難しいことや、準備にしんどさを抱えていることが見えています。

また、誕生日においては「子どもの誕生日を準備する中で、どのような感情になったか」のなかで、困窮家庭は子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」は減り、「お金がかかって大変」は増える傾向にあり、一方、一般家庭では子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」が増えることがわかりました。

特に困窮家庭では、「切ない」が約21%で一般家庭の7倍、「しんどい」は約10%で一般家庭の5倍、それぞれ感じていることがわかりました。

今後はこのような結果に基づき、「子どもに愛された記憶を残す」という団体のミッションに基づき、どんな家庭環境であっても、子どもとその親が、その子の誕生に対して前向きに捉え、自身の存在を大切に感じられる社会づくりのための事業を進めていきます。

ブックサンタの本を誕生日プレゼントとして活用する他、ブックサンタで得た連携ノウハウを元に、ケーキ店との連携を通じ、誕生日の支援を行う予定です。

(調査結果・参考URL : <https://www.charity-santa.com/news-release/research2021mcf/>)

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 |
|------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------|--------|---|
| チャリティーイベントに関する企画運営事業 | クリスマスイブにサンタクロースが訪問するチャリティー企画を運営実施 | (準備) 通年 (本番) 12月24日 ※一部は事前実施 | 全国30都道府県 | 約500名 | 訪問家庭数：1,587軒 訪問児童数：2,740名 ※施設なども含む ボランティア数：2,015名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへのサンタクロース訪問 対象となった子どもの数：949人/訪問家庭数：607軒) 連携団体を通して届けた困窮する子ども人数：約2万人 |
| チャリティーグッズに関する企画運営事業 | サンタクロースから手紙が届くチャリティーグッズ販売 | (準備) 通年 (実施) 11月～12月 | 東京都 | 10名 | 購入人数：1,840名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへ無償提供：1,022家庭) |
| チャリティーグッズに関する企画運営事業 | ネパールで作ったフェルトマスコット販売 | (準備) 通年 (実施) 11月～12月 | 東京都 | 3名 | 購入人数：約100名 (158個) ※コロナ禍により限定販売 |
| 子どもの体験活動支援事業 | 困窮家庭への体験支援 | 通年 | 主に岡山県 | 約20名 | 子どもの参加数：2,263名 |
| 子どもの体験活動支援事業 | 各地域で子どもの遊びや体験を促すイベントを実施 | 通年 | 神奈川県湘南地域、岡山県、盛岡県他 | 約50名 | 子どもの参加人数：約200名 |
| スタディーツアー事業 | 実施なし | - | - | - | - |
| 市民の社会参画の機会提供及び推進を図るための企画運営事業 | ボランティア参加や社会参加を促すための講演会の開催等 | 通年 | 全国 | 3名 | 受講者：約500名 |

| | | | | | |
|----------------------|-------------------------------|---------|-----|----|--|
| 調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業 | コロナ禍における困窮家庭の子どもの「体験格差」調査について | 11月～12月 | 全国 | 3名 | 一般家庭：876家庭 ルドルフ基金申し込み家庭（困窮世帯）：2,118家庭 |
| 調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業 | 岡山親子応援メールの運営 | 通年 | 岡山市 | 3名 | 登録世帯（困窮世帯）：約2,500名 |